

加フ、此方ヲ用ユルニ百發百中、奇々妙々、其効不可言也、

〔武江年表^四〕享保十五年冬より、翌年春にいたり、麻疹流行、身うちへ、白牛洞をぬる、

〔武江年表^五〕寶曆三年四月より九月に至り、麻疹流行人多く死す、

〔武江年表^六〕安永五年三月末より秋の始まで、麻疹流行人多く死す、

〔半日閑話^{十三}〕安永五年丙申四月、此節より麻疹流行す、

〔教令類纂^{二集四十}〕天明二寅年五月、大納言様御麻疹被遊候ニ付、

一西丸へ爲伺御機嫌、明十九日五時前總出仕、夫々御本丸へも御容體御輕、恐悅之旨にて可有登城事、

一病氣幼少之面々者、御本丸月番之老中豐後守へ使者可差越事、

一在國在邑之面々者、飛札可差越事、

一在江戸隱居之面々よりは、御本丸月番之老中豐後守へ使者可差越事、

一在國在邑之隱居よりも、飛札可差越事、

一明十九日、御酒湯被爲召候迄者、毎日豐後守迄使者可差越事、

右之通可被相觸候

五月十八日

〔年々隨筆^四〕ことし、^三享和はしかといふえやみおこりて、高きいやしきみなやみの、しる、卯月

ばかりよりの事にて、五月みなづき、家々おちすやみつゞけたり、この病は、生る限にたゞ一たびわづらふ事にて、二十年餘、物へだて、おこる事也、さきの度には、おのれ^正明もわづらひつる

を、まだをさなきほどにて、はかゞまうおほえねど、世にあらざるしかりしとばかりは猶わすられず、それは安永五年の事也といへば、廿八年さきの事也、さやうにまれく、にのみあるも